四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓　自主・自律　協同

新座市立第四中学校学校だより　令和4年　7月20日　第5号
TEL　048-477-6053　　URL　www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon

http://www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon/

経験値を高める

校 長　鮫島　弘樹

それが重要な仕事の当日であっても、その方は迷うことなく仕事を休むそうです。「仕事とそっちと、どっちが大事なんですか！」仲間から詰め寄られている姿を、私も実際目にしたことがあります。「そりゃ、仕事よりそっちの方が大事」

呆れ顔の同僚に「悪いね」と言い残し、その方は休暇を取って職場を後にしました（四半世紀前の古い話です）。

彼が向かった先は、その日に行われたどこかの橋の開通式でした。橋でもトンネルでも、新しく開通すると聞くと胸が高鳴り、駆け付けずにはいられないほどの「開通式マニア」なのだそうです。テープカットと、それに続く渡り初（ぞ）めの体験がたまらないそうです。

６月、８３歳にして一人ヨットで太平洋を横断した堀江謙一さんは、「僕自身の自己満足のためにやっているんです」と語っています。「人類の平和のために」など崇高で壮大な目的ではない、というコメントは、とても正直な気持ちのように感じます。はたから見れば、無意味で無駄なことかも知れません。

しかし、堀江さんのニュースに触れて、「８３歳でもまだまだやれるな」「人間はどんな孤独も、気持ち次第で乗り越えられるものだね」と、勇気を得た人もいることでしょう。そうなると、元々は無意味だったことに意味が生じてきます。

開通式通いにせよヨットにせよ、一見意味の無さそうなことが、後からどこにどうつながっていくかは分かりません。ですから、意味があるかどうか、自分や他者の役に立つかどうかだけで行動を決めるのは、私は少しもったいない考え方だと思っています。

「目の前のこの道が、一体どこまで続いているのか確かめに行ってみよう」と自転車にまたがったとします。地図を開けば道路の終着点はすぐに分かりますし、知ったところですぐに何かの役に立つわけでもありません。

しかし、自転車をこいで、道の両側に連なる住宅や店舗の様子を眺め、街の匂いを感じ、高低差を実際に体験した人は、地図を広げただけの人よりも、確実に自身の経験値が高まります。

学校では、この６月に実施した修学旅行のように、教室での学習以外に様々な行事を行っています。今年度は、体育祭や合唱祭も久しぶりに実施できる見通しで、準備を進めています。それらの活動は、机上だけでは味わえない貴重な体験の場として設定されているものです。

夏休みが始まります。学校を離れる時間が多くある分、より自由に、自分の興味に応じた活動がしやすいはずです。

意味があるかどうか、役に立つかどうかは後からついてくるものです。

もちろん安全や健康には十分配慮しながら、自分の経験値を高める有意義な時間として、夏休みを大いに活用してくれることを願っています。